

材料開発研究室報告第3巻の発刊にあたり

工学部長 柴原正雄



材料開発研究室は昭和60年以来、文部省のご理解を戴き、学部内規の定める管理委員会のもとで、研究室の運営に工夫も重ねられ、室長を中心として室員各位の研究室充実と発展に対するご努力並びに材料に関連深い教官各位の何かとのご協力により、順調に成果を挙げ、ここに研究室報告第3巻を発刊出来ますことは誠にご同慶の至りであります。

申すまでもなく、先端技術産業において新材料開発に寄せられる期待は、バイオテクノロジーと情報処理関係と共に大きな3本柱をなし、材料の分子・原子レベルの機能の活用化が新産業を構築し、展開させ、場合によっては関連産業の生死を制したり、広く社会環境を一変する可能性さえもある状況下であり、正しく材料こそハイテクの基本であると言って過言ではないと思われます。

本研究室が、かねてから望ましい姿として掲げて参りました“高性能材料部門”，“機能性材料部門”及び“材料物性部門”の構成意義もここにある次第で、特に新生研究室の発展にご関係各位の何分のご理解とお力添えをお願い申し上げます。

昭和63年3月